

## ■7月15日

スターフライヤー、北九州—釜山線、就航1年、搭乗率56.6%、採算ラインに届かず

スターフライヤー初の国際定期路線、北九州—釜山線が12日、就航から1周年を迎えた。累計乗客数は今年5月末時点で10万6684人。搭乗率は56.6%と、採算ラインとされる60~70%には届いていない。

使用機材は、アバスA320型機(定員150人)、1日2往復(片道約50分)で運航している。搭乗率は昨年7月には80%を超えたが、竹島を巡る日韓関係の悪化によって同9月には40%を切った。しかしその後は、円安が追い風になって韓国人観光客が増えたほか、利便性の良さをPRした効果も出て、今年3月以降は60%超を維持している。

5月に発表した中期戦略では、2014年度に国際線だけで6往復増やすとしていたのを、国内と国際線で3往復増にとどめた。当面は旅行会社のチャーター便を飛ばし、需要を探る方針だ。8月には北九州—グアム便を運航する。

(読売新聞)7/13

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20130713-OYS1T00305.htm> (-> <http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20130713-OYS1T00305.htm>)

(朝日新聞)7/14

[http://digital.asahi.com/articles/SEB201307130008.html?ref=comkiji\\_txt\\_end\\_kjid\\_SEB201307130008](http://digital.asahi.com/articles/SEB201307130008.html?ref=comkiji_txt_end_kjid_SEB201307130008) (-> [http://digital.asahi.com/articles/SEB201307130008.html?ref=comkiji\\_txt\\_end\\_kjid\\_SEB201307130008](http://digital.asahi.com/articles/SEB201307130008.html?ref=comkiji_txt_end_kjid_SEB201307130008))

FDA、初の稚内空港へのチャーター便開始、8月末まで19往復

フジドリームエアラインズは12日、小牧—稚内間チャーター便を開始した。初の稚内空港への乗り入れとなる。76人乗りジェット機による運航で、8月22日まで19往復し、大手旅行会社が企画するツアー客など約1300人の利用を見込んでいる。

同路線は、全日空が季節運航していた稚内—中部、関西両便の休止を受け、稚内市側が働きかけて実現した。

(北海道新聞)7/13

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/479300.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/479300.html>)

中国南方航空、新潟—ハルビン線、4便体制へ復便

中国南方航空が運航する、新潟—ハルビン路線は15日から週4便態勢に復便した。日中関係の悪化や成田—ハルビン線就航の影響で一時的に2便まで減ったが、帰省需要が高まる夏に合わせて増便する。4便態勢となるのは9カ月ぶり。新潟日報が報じた。

運航する中国南方航空によると、日本に住む中国人の帰省利用に加え、中国からの訪日ツアーの人気の戻りつつあり、需要を底上げしているという。20日から8月20日までは、さらに4往復8便が臨時便として運航される。

同社は「中国からのツアーは好調だ。ただ、日本からの利用がまだ回復しておらず、4便態勢を続けるかは市場の反応を見て判断したい」としている。

(新潟日報)7/14

<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130713054572.html> (-> <http://www.niigata-nippo.co.jp/news/national/20130713054572.html>)

中部国際空港、LCC新ターミナル、建設を行う方針で検討

(トラベルビジョンによると)

中部国際空港は2014年度中に開業予定の新ターミナルについて、現時点では建設をおこなう方針だ。同社広報によると「作る方向で検討している。進めるところは進めている」という。中部ではエアアジア・ジャパン(JW)が中部の第2拠点化を表明したことをきっかけに新ターミナルの建設を計画しており、今年3月末には周辺のエプロンや駐車場の整備・増設を含めた南側地区整備事業計画を発表していた。

6月に全日空(NH)とエアアジア(AK)が提携を解消したことで、一部で「ターミナル建設凍結」との報道もあったが、同

社広報によると、現在中部に就航している航空会社などとターミナル建設に向けた対話をおこなっているほか、エプロンや駐車場整備についても詳細な計画を詰めているところという。

今後はNH側の動きを注視しながら方針を決めていく考えで、NHが7月末に発表を予定している、JWの今後の展開を踏まえて判断する。なお、NH側は、JWの既存路線は維持する方針であるものの、中部での新規路線開設や増便、拠点化などの詳細な内容については「検討中」としている。

(トラベルビジョン)7/14

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58250> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58250>)

#### 成田空港、2013年夏季利用者数、出入国者数前年並み、出国者数0.9%減

成田国際空港(NAA)は11日、2013年夏季(2013年7月12日～9月1日)の出入国者数を発表した。それによると、出入国者数は、前年比0.2%増の391万1900人と前年並みになる予想。出国者数は0.7%減の199万9500人、入国者数は1.1%増の191万2400人となる見込み。NAAによると、前年割れが続く中国、韓国への海外旅行者が減少する一方、円高効果などにより訪日外国人が増加した。

方面別で見ると、欧州とハワイなどのリゾート地の人気が高く、欧州ではイタリアやロンドン、パリが人気だ。また、アジア地域ではタイやシンガポール、台湾が比較的順調だとした。

(トラベルビジョン)7/14

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58242> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58242>)

(NAAプレスリリース)7/11

[http://www.naa.jp/jp/press/pdf/2013.07.11\\_1.pdf](http://www.naa.jp/jp/press/pdf/2013.07.11_1.pdf) (-> [http://www.naa.jp/jp/press/pdf/2013.07.11\\_1.pdf](http://www.naa.jp/jp/press/pdf/2013.07.11_1.pdf))

#### アエロメヒコ航空、成田線にボーイング787投入、10月から

アエロメヒコ航空は10月14日から、成田—メキシコシティ線にボーイングB787型機を投入する。成田線は現在B767型機で運航しているが、機材変更により座席数が171席(ビジネス30席、エコノミー141席)から243席(ビジネス32席、エコノミー211席)に増加。週3便のいずれもB787型機に入れ替えるという。また、週4便への増便も2014年春の実現をめざす方針だ。

なお、同社では合計19機のB787型機を発注。初号機を8月前半に、2号機と3号機を9月に受領する予定だ。機材の受納後、10月1日にメキシコシティ発着のモンテレイ線とティファナ線で運航を開始し、10月2日から13日までの間にメキシコシティー—ニューヨーク線にも導入。このほか、パリ線での運航も予定している。

(トラベルビジョン)7/14

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58240> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=58240>)

#### USエアウェイズ株主、AMRとの合併を承認

米USエアウェイズ・グループの株主は12日、アメリカン航空の親会社AMRとの合併を承認し、世界最大の航空会社誕生に向けてまた1歩前進した。USエアウェイズ株主は新会社の28%を取得する。

(WSJ)7/14

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324195104578601000947455698.html> (->

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424127887324195104578601000947455698.html>)

#### フライトスタッツ、空港の定時運航率、中国が世界最悪

(CNNniyoruto)

航空サービス関連情報企業の米フライトスタッツは13日までに、世界の空港を対象にした離着陸の定時運航率に関する報告書を公表し、中国の空港が「世界最悪」の水準にあると述べた。

今年6月の実績を対象にしたもので、中国の空港の定時運航率は過去半年間にさらに悪化したと指摘。定時運航率のランキング最下位是北京首都国際空港で、定刻通りの離陸便の比率は18.3%。便の約42%が45分以上の遅れを

記録した。次に低い比率は上海の虹橋国際空港の24%で半年前の38.9%からさらに低下していた。

フライトスタッツの報告書を伝えた香港紙サウスチャイナ・モーニング・ポストは、広州や昆明、南京、成都などの地方空港の定時運航率も50%にも満たなかったと伝えた。

アジアでの定時運航率の首位は大阪国際空港(伊丹空港)の95.88%で、羽田空港の95%が続いた。北米ではホノルル86.29%、バンクーバー86.18%にソルトレークシティが85.55%など。欧州はアムステルダムが83.52%、ミュンヘン83.35%、ウィーン82.15%など。

航空会社別の着陸の定時運航率でも中国の低水準ぶりが目立った。フライトスタッツによると、世界の主要航空会社による定刻前後の15分間内の着陸は6月で平均75.85%。定時運航率で90%超の会社が6社あった。

半面、中国の聯合航空は27%。大手の国際航空と南方航空には多数の便での遅れが目立った。同紙は中国の空港と航空会社の低調な定時運航率は軍による過剰な空域支配などが原因と指摘。中国の空域の約8割は軍用に充てられ、米国を含む外国とは全く逆の事態になっていると伝えた。

(CNN)7/14

<http://www.cnn.co.jp/business/35034657-2.html> (-> <http://www.cnn.co.jp/business/35034657-2.html>)